

街道を歩く



東海道: 07 野村町(亀山市) - 新所町(関西追分)

地蔵院 (九関山宝蔵寺、真言宗)

天平13(741)年行基建立。本尊は地蔵菩薩坐像。国内最古。行基作との伝え。

"関の地蔵に振袖させて奈良の大仏嬢とう"

とうたわれたほど福德圓滿な表情
本堂南に愛染堂と呼ばれる護摩堂がある。
本堂、鐘楼、愛染堂三棟は国重文。



会津屋 (旧旅籠山田屋) と小万

久留米藩士小野元就に殺された牧藤左衛門の妻は身重の体で仇を探して関まで来たが山田屋で女子を出産して亡くなる。

山田屋の主人が小万と名付け育て亀山藩の加毛寛斎のもとに剣術の修行に通わせた小万18歳のときにあだ討ちを遂げる。その後小万は山田屋にお礼奉公し38歳で亡くなる。享和3年(1803)。



関宿 (江戸から47番目、亀山宿より1里半)

平安時代鈴鹿越えの道が開かれ交通の要所となった。関所が置かれ愛発(越前)、不破(美濃)とともに古代3関の1つであった。そのころから村落は出来ていた。江戸時代に宿駅制がしられ中町に本陣、脇本陣が置かれ旅籠が軒を連ねるようになった。

街並は東の追分から西の追分までおよそ1.8KM
東海道、伊勢別街道、大和街道の分岐点で賑わっていた。本陣2、脇本陣2、問屋1、旅籠42(天保14年、1843)
東海道の宿場町の中で唯一街並が残る。
格子細工、虫籠窓、漆喰彫刻など目を引きつける。

関の小万もたれ松

関の小万が亀山に剣の修行に通う途中にからかう若者を避けるために隠れた松との伝えがある。



瑞光寺

永禄3年(1560)関氏の菩提寺として建立。家康がここに立寄り柿を食べたという。その柿の木が権現柿として残る。



東の追分

東海道と伊勢別街道の分岐点
大鳥居は伊勢神宮遥拝を遥拝するもの。式年遷宮の時内宮の宇治橋南詰の鳥居が移される。常夜燈、道標が残る。



打田権四郎屋敷跡

打田は近江国甲賀郡打田村出身、亀山藩主本多家の元で代官を勤め後大庄屋となる。打田家の伝によるとお百合様といわれた娘が紀州藩徳川光貞に見初められ吉宗(8代將軍)の生母という。紀州家から賜った品々が慈恩寺に残るという。



関神社 (祭神天照大神ほか)

関氏の祖実忠が紀伊国熊野坐神社の分霊を勧請したのがはじまりと云われる。江戸時代には熊野三所大権現と云われていた。明治27年近くの大井神社、白石神社、宇佐八幡宮を合祀して関神社となる



布気皇館太神社 (天照大御神他)

天照大神、忍山神社に奉斎後ここにも御休泊(7日)、大比古命神田、神戸献じる。神宮の御厨が多かったので館殿が造られる。この付近神戸七郷の総社。



野村の一里塚 (江戸から106里12町)
北側の塚が残る。樹齢300年を超える棕(ムク)の木、棕の木はここだけという。



天武天皇が不破へ向う途中
勝利を感応したという山

観音山



観音院

この辺りはかつて
火縄を製造していたという

西の追分

法悦供養塔道標

城山

愛染堂

伊藤本陣跡

川北本陣跡

関まちのみ資料

百五銀行

御馳走屋敷跡

松鶴楼

開雲楼

別街道

伊勢